



2019年度 EDU-Port 公認プロジェクト

# 日本型の食育・健康教育を起点に、健康・福祉の 向上と文化・マナーの理解を通して、社会課題の 解消を実現

スマートキッズ株式会社

代表取締役 社長 三井 琢雄



Z-KAI Group



# 事業の背景と目的

## 2018年度から本事業に採択

グループ内の「食育」のリソースと  
弊社グループ海外拠点のあるベトナム  
にて都市部の肥満問題解決に向けて  
日本型”家庭科”を輸出/現地最適化  
※ベトナムでは都市部における子供の「肥満」が  
社会課題となっている

ベトナムは栄養教育の内容が乏しく  
1クラス多人数で一方通行型授業が主流



主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を  
現地で実践し、児童および家庭の行動変容を促す

# 日本型食育授業の実践(2018年度報告書補足資料より)



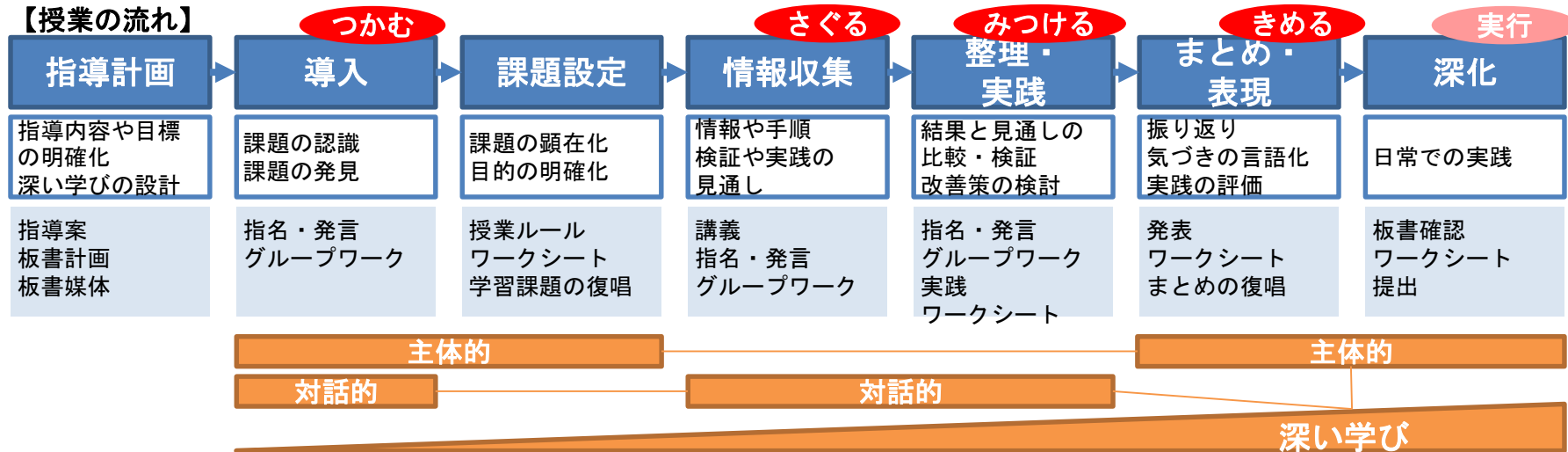
## ■目的

- 日本の文部科学省の日本型教育事業の実践として実施
- ベトナムにおける食育・健康教育として、子どもの肥満問題解消を目的
- 栄養バランスの取れた食事の重要性の理解を促進し、食事と健康意識を高めることが目標
- 日本型の家庭科教育及び日本型授業の実践（「主体的で対話的な、深い学び」）

## 主体的で対話的な、深い学び

主体的	学習者自ら、課題を発見・解決し、そのプロセスを自覚する
対話的	他者との学び合いから、学習のプロセスの質を高め、新しい知識を創造する
深い学び	学習のプロセスを認知し、知識の関連付けや意味づけを通して、自ら再構成する

## 【授業の流れ】





# 課題解決に向け 進めてきた取り組み



体験型活動の一環「調理実習」

日本型「食育」を現地に伝えるために

新潟県立大学村山先生とその下で学んだ  
齊藤栄養教諭の全面的な支援を得て、  
肥満の原因となる

- ・ 栄養バランスの不均衡
- ・ 野菜摂取量の絶対的不足
- ・ 想定を超える「間食」 (2019年度)

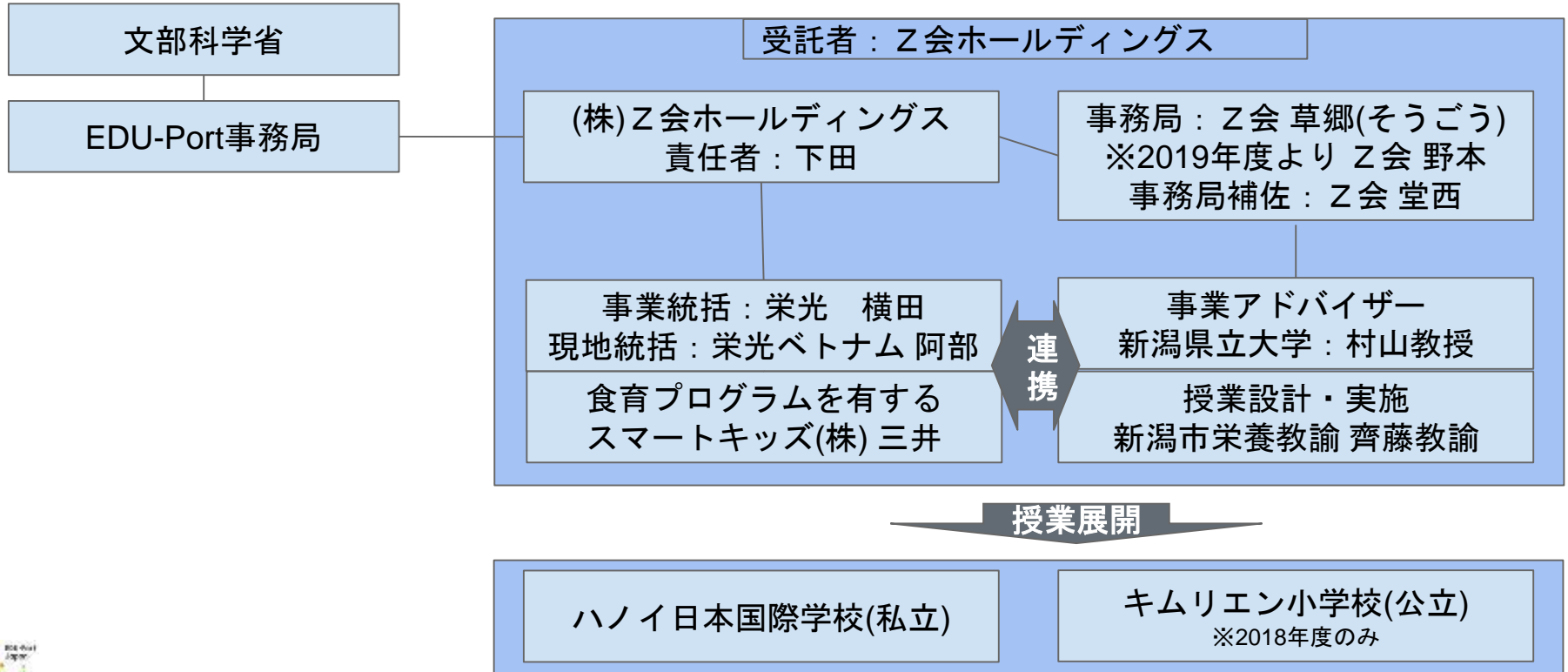
の3つの指導案を開発

いずれも体験と協働を取り入れる

**※2018年度は「調理実習」も実施**

行動変容に向けては児童だけでなく家庭  
との連携も必要な為、保護者アンケート  
等を通じて情報共有も図った

# 事業体制図



# 実施したカリキュラム概要

## 【第1日程】

### (1)期間

第①日目 12月12日(水)、第②日目 12月13日(木)

### (2)開催場所

ハノイ日本国際学校(ハノイ市)、Kim Lien小学校(ハノイ市)

### (3)授業テーマ

- ①: 12月12日(水)野菜を食べることの意味を知る
- ②: 12月13日(木)苦手な野菜を好きなものと一緒に食べる(調理)

### 指導内容:

- ・食生活、好き嫌いについての事前アンケートと共有
- ・肥満や健康に関するベトナム社会問題の認知
- ・食事と栄養、栄養と健康に関する知識
- ・苦手な食べ物(主に野菜)を食べることの重要性
- ・苦手な食べ物を調理して、実際に食べる
- ・食事の際のあいさつ、片付けの実施(日本文化)
- ・振り返りと家庭への共有(ワークシート)
- ・食事意識についてのアンケートの実施

## 【第2日程】

### (1)期間

第①日目 1月16日(水)、第②日目 1月17日(木)

### (2)開催場所

ハノイ日本国際学校(ハノイ市)、Kim Lien小学校(ハノイ市)

### (3)授業テーマ

- ①: 1月16日(水)バランスのよい食事をとるための食べ物の組み合わせ
- ②: 1月17日(木)バランスのよい食事を組み立て(調理/組み立て)

### 指導内容:

- ・食事と栄養、栄養と健康に関する知識の確認
- ・苦手な食べ物(主に野菜)を食べることの重要性の確認
- ・バランスのよい食事の作り方の知識
- ・バランスのよい食事の作り方をグループワーク
- ・バランスのよい食事の認識
- ・バランスのよい食事の調理と食事(ハノイ日本国際学校)
- ・バランスのよい食事の正しい選択と食事(Kim Lien小学校)
- ・あいさつと後片付け(日本文化)
- ・感謝の気持ちの伝達(ハノイ日本国際学校)
- ・振り返りと家庭への共有(ワークシート)
- ・食事意識についてのアンケートの実施
- ・教員アンケートの実施

# 授業の様子



栄養バランスを考えながら食材カードを配置  
(グループ内協働)



積極的な発問を通じた教室内コミュニケーション  
(児童同士の助け合いを促しながら展開)

# アンケート結果概要

## ※アンケート結果(参考)…Kim Lien小学校

児童の食の趣向調査として事前に行ったアンケートでは、野菜が好きな割合は、38.7%で、嫌いな割合は50.2%と、嫌い児童は約半数。一方、肉類などのタンパク質源の食品が好きな割合は70.8%、乳製品は78.6%となっている。

また、児童の食事バランス意識調査として、バランスよく食べていると答えた割合が12月は、50.9%だったが、授業を受けたあとに同じ質問をしたところ、1月は、60.4%とバランスよく食べている割合が上昇。授業を受けて、意識が変わったと答えた割合は、変わったが58.5%、少し変わったが32.1%と9割が、意識が変化したと答えている。

教員に対する日本型教育に対するアンケートでは、**日本型教育のグループワーク形式の授業について、継続したいかという問いについて、100%が思うと答えている。**

### 個別意見

#### 肯定的

「子どもたちは取り組むことができる」

「子どもたちに積極性を発揮させて、

授業の主体性を発揮する」

「教え方が面白い」

#### 否定的

「日本風の教え方は、児童数が20～30名クラスにはあっているが、人数が多いとクラスが騒がしくなってよくない」



# 事業のアウトカム

## <成果目標：日本の教育の国際化>

<本パイロット事業に参加した**日本側**の教員、職員、指導者および園児・児童・生徒・学生の数>

データ	実績値		目標値	
	2018年 度中	2019年 度中	2018年 度中	2019年 度中
教員数（人）	2		1	3
職員数（人）	1		1	2
指導者数（人）	2		3	3
園児・児童・生徒・学生数（人）	0		10	20
その他関係者（人）	5		3	3
合計（人）	10		18	31

# 事業のアウトカム

## <成果目標：親日層の拡大>

<本パイロット事業に参加した**相手国側**の教員、職員、指導者および  
園児・児童・生徒・学生の数>

データ	実績値		目標値	
	2018年 度中	2019年 度中	2018年 度中	2019年 度中
教員数（人）	4		2	22
職員数（人）	4		2	5
指導者数（人）	3		2	2
園児・児童・生徒・学生数（人）	150		80	80
その他関係者（人）	11		5	5
合計（人）	172		91	114

# 事業のアウトカム

## <成果目標：日本の経済成長への還元> <本パイロット事業に参加した民間企業数>

データ	実績値		目標値	
	2018年 度中	2019年 度中	2018年 度中	2019年 度中
日本の企業数（社）	3		5	10
海外の企業数（社）	4		3	20

## <メディアに報道された実績>

データ	実績値	
	2018年 度中	2019年 度中
webサイト（回）	3	0
SNS（回）	1	0
テレビ（回）	0	0
新聞（回）	0	0
雑誌（回）	0	0
その他（回）	0	0



# 課題と2019年度の 事業への取組状況



ベトナム国立営業研究所 Dr.Huy氏(中央)と撮影

## 2018年度の課題

現地の教員だけで専門的な授業を進めるのはハードルが高いため、保健省や現地大学・栄養士、その他企業・団体と協力して、栄養士が学校で指導するなどの学校が需要しやすいプロセスづくりの支援と、将来的に自走できる状態にすることが必要



2019年度は、ベトナム国立栄養研究所と連携し教材の内容の慣習や、現地で育成されるつある「栄養士」に向けて2年間で開発した教材と授業手法を「継承」すべく、事業展開中